

MAT Exhibition vol.6 Archives of the Art Festival in Tsurugi / Nagoya

鶴来現代美術祭アーカイブ / 名古屋

2017年6月10日(土) - 8月5日(土)

時間 | 11:00-19:00(入場は閉館30分前まで)

会場 | Minatomachi POTLUCK BUILDING 3F:Exhibition Space

休館日 | 日曜・月曜・祝日 入場 | 無料 主催 | 港まちづくり協議会

Minatomachi POTLUCK BUILDING 3F: Exhibition Spaceでは、1991-99年まで鶴来町(現・石川県白山市)で開催された「鶴来現代美術祭」を検証するアーカイブ展を開催します。

金沢市の南に位置する鶴来町は、古来から信仰の山として崇められてきた白山の美しい山並みの風景とともに、山麓と平野部を結ぶ加賀地方の交易市場として栄えました。また地場産業が盛んで地域の祭りとも連動した「つくりもの」文化が脈々と受け継がれている地です。

当時地元の商工会青年会が主催となり、国際的に活躍するキュレーターのヤン・フート(1936-2014年)が企画に関わったこのプロジェクトでは、海外から招聘したアーティストたちが滞在し、地元の産業と協働して制作を行いました。このアートフェスティバルは、昨今まちづくりやアートの分野でも注目されている地域とアートの取り組みを実践した先駆的事例のひとつとして注目されています。

本展では、美術祭の関連資料、当時の関係者へのインタビュー映像とともに、鶴来町出身で美術祭に触れたアーティスト・坂野充学による鶴来をテーマにした映像作品を展示します。会期中トークイベントも開催し、展覧会を通して地域とアートの関わり方について考察します。

鶴来現代美術祭

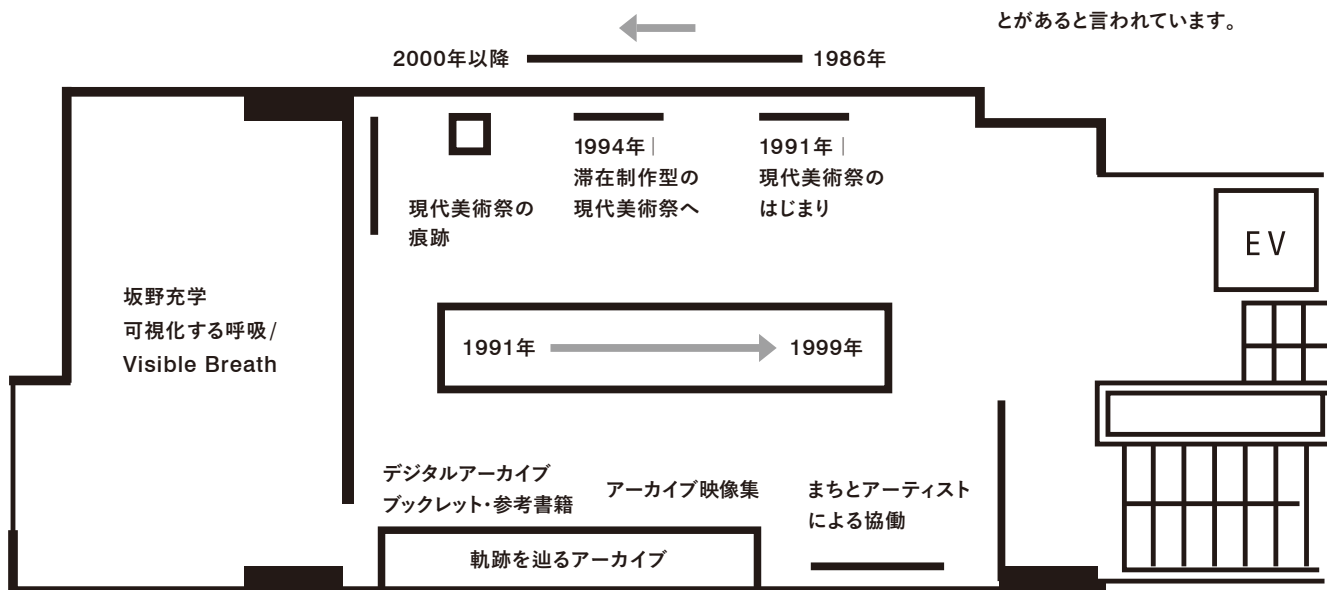
Art Festival in Tsurugi

1991-99年まで鶴来町(現・石川県白山市鶴来地区)を舞台に7回にわたって開催された美術祭。

特に1995年までは、ベルギー・ゲント市の現代美術館館長や、1992年にドイツ・カッセルで開催された国際展「ドクメンタ9」のコミッショナーも務めたヤン・フートが企画に関わり、国際的なアーティストが滞在し、鉄加工業など地元の職人の協力を得て制作を行うことが実現しました。

近年各地で盛んに開催されている地域の芸術祭の先駆的な事例であり、開催事務局を地元の商工会青年部が担い、制作に協力していたことも大きな特徴です。

その背景には、「つくりもの」で有名な地域の祭り「ほうらい祭り」での協働作業が伝統的に続いてきたことがあると言われてしています。



港まちづくり協議会
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN

Minatomachi
Art
Festo,
Nagoya
MAT.
Nagoya

Minatomachi
POTLUCK
BUILDING

美術祭の開催から約20年が経った現在、坂野充学、鷲田めろろ、小松崎拓男が中心となり、保管年限を過ぎた資料のアーカイブや、地域関係者や参加アーティストへのインタビュー記録、調査研究などに取り組んでいる。2016年には「鶴来現代美術祭アーカイブ展」として金沢21世紀美術館・アートライブラリーにて、アーカイブを公開。

坂野充学 / Mitsunori Sakano

アーティスト

1977年石川県鶴来町(現・白山市)生まれ。同地、東京都在住。フィールドワークを通して出会う人物の視点をもとに、特定の土地の歴史や記憶を視覚化するプロジェクトを中心に展開。またクリエイティブスペース・MITSUME(東京)を立ち上げ、企画、運営を行う。

《可視化する呼吸 / Visible Breath》について

慣れ親しんだ風習、無意識のうちに生活の一部となった伝統、これらを始めたのは一体誰なのか、そしてその人はいつどこからやって来たのか。

遙か遠くからやってきた異質な文化の種はいつの間にかその地に根を下ろし、元あった慣習と溶け合いながらもどこかに息を潜めてその形を留めているかもしれません。

私の郷里へ対する根源的な感覚。それと遠く離れた世界を接続する私的な旅は、1人の民俗学研究者との出会いにより具体的なイメージへと可視化されました。

私はつくること、視覚化することを通じてこれからも変容と継承を繰り返し、日々更新されながら刻々と変化していく世界をみつめていくのだと思います。

坂野充学

鷲田めろろ / Meruro Washida

金沢21世紀美術館キュレーター

1973年京都府生まれ、石川県在住。

1999年より金沢21世紀美術館の建設事務局に勤務。地域や参加をテーマに現代美術や建築の展覧会を企画する。金沢21世紀美術館での主な企画に、妹島和世+西沢立衛/SANAA(2005年)、アトリエ・ワン(2007年)、イェッペ・ハイン(2011年)、島袋道浩(2013年)、坂野充学(2016年)などの個展、「金沢アートプラットフォーム2008」、「3.11以後の建築」(2014年)などのグループ展がある。また第57回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館キュレーター(2017年)を務める。

小松崎拓男 / Takuo Komatsuzaki

金沢美術工芸大学教授

1953年千葉県生まれ、石川県在住。

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]学芸課長、広島市現代美術館副館長を経て2007年より現職。絵画からメディア・アートなど、幅広い視野で現代美術の展覧会を数多く企画。主な企画に「TOKYO POP」(平塚市美術館、神奈川、1996年)、「New Media New Face New York」(NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]、東京、2000年)、「絵画新世紀」(広島市現代美術館、2003年)などがある。

ヤン・フート / Jan Hoet

キュレーター・ベルギー・アントワープ現代美術館「S.M.A.K.」初代館長。1936年ベルギー生まれ。2014年に逝去。精神科医を父に持ち、少年時代から両親の美術コレクションと親しむ。1975年にアントワープ現代美術館のディレクターとなり、当時建物を持たなかった現代美術館の展覧会として、アントワープ市内の51の住宅を会場に開催した「シャンブル・ダミ / Chambres d'Amis」展を企画した。1992年には「ドクメンタ9」のキュレーターも務める。1999年にアントワープ市立現代美術館「S.M.A.K.」を創設。

フランツ・ウェスト / Franz West

アーティスト。1947年オーストリア生まれ。2012年に逝去。コンセプチュアルな彫刻や絵画を用いて、インスタレーション作品を制作。「あいちトリエンナーレ2010」にも出展し、名古屋美術館で彫刻作品を展示。

ビル・ウッドロー / Bill Woodrow

アーティスト。1948年イギリス生まれ。1980年前後に活躍し始めた若手の彫刻家たち「ニュー・ブリティッシュ・スカulpture」の1人。

ロイデン・ラビノヴィッチ / Royden Rabinowitch

アーティスト。1943年カナダ生まれ。アイルランド・ダブリンおよびベルギー・アントワープ在住。バイオリンと音楽理論を学んだ後、トロントで活動を始める。鉄板を組み合わせた作品を制作。

和多利志津子 / Shizuko Watari

キュレーター、ワタリウム美術館初代館長。1932年富山県生まれ。2012年に逝去。1990年にワタリウム美術館を開設。現代美術、思想、建築をテーマにした展覧会の企画キュレーションを手掛けた。鶴来現代美術祭では、1991年、1994年と企画者として関わった。

「シャンブル・ダミ / Chambres d'Amis」展

1986年6月21日-9月21日までの3か月間、ヤン・フートのキュレーションで行なわれた展覧会。「シャンブル・ダミ」は「友達の部屋」という意味で、アントワープ市内一般住宅を会場に、クリスチャン・ボルタンスキーやダニエル・ブユレン、ブルース・ナウマンなど国際的に活躍するアーティスト51組が参加した。会場となる「展示室」の提供者だけでなく、作品を見守る監視スタッフ、会場間を巡回するタクシートの運転手なども市民から募り、市民が作り手として参加した画期的な展覧会であった。観客は、地図を片手にアントワープ市内に散在する「展示室」を巡って鑑賞した。旧来の美術館で行なわれる展覧会の概念を覆し、会場にあわせたインスタレーション作品や、場所の特性を活かしたサイト・スペシフィックな作品などダイナミックな作品が数多く発表された。市民参加型プロジェクトとしての展示形式は先駆例として高く評価され、この展覧会によって、アントワープ現代美術館と、ヤン・フートは国際的に認知されることとなった。

ドクメンタ / documenta

1955年から始まったドイツ・カッセルで5年に1度開催されている国際的な現代美術展。ナチス・ドイツによって没落芸術と認定された20世紀の前衛芸術を回顧する展覧会として始まる。開催年ごとにキュレーターが選出され、各回時代に沿ったテーマを掲げて開催する。2017年のドクメンタ14のテーマは「Leaning from Athens / アテネから学ぶ」で、ギリシャ・アテネとカッセルの2都市で開催中。(アテネは7/16、カッセルは9/17まで開催。)